

科目ナンバリング		U-LAS00 10019 LJ34							
授業科目名 <英訳>	科学論II Philosophy and History of Science II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 青山 拓央				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>「科学論I」と同様、ある具体的なテーマに関して科学が何を見いだしてきたか、さらに哲学では同テーマをどのように扱ってきたかを解説し、その比較を通じて科学の特性を理解していきます(担当教員の専門は哲学)。本授業では「心と時間」との関係を中心的なテーマとして掲げ、さまざまな時代・地域の哲学研究や、心理学・物理学・脳神経科学などの知見を参照しつつ、上記の課題に取り組みます。「今」という時間の特異性や、記憶のメカニズム、そして、それらと「心」との関わりを確認していくことを通じて、科学論の一つの在りかたを提示します。</p>									
【到達目標】									
<p>「心と時間」の科学と哲学をめぐる諸研究を知り、その論点を学ぶとともに、科学的研究の特性を、歴史をふまえて理解できるようになる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の5つのテーマに沿って、「科学とは何か」「心と時間との関係は、いかなるものか」を考えます(授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：諸学問の特性について(第1週) 2. 「心と時間」の哲学における諸問題#1(第2週～第5週) (デネットやチャーメーズなどの議論を紹介。) 3. 時間と自然科学との関係について(第6週～第9週) 4. 「心と時間」の哲学における諸問題#2(第10週～第13週) (近年の多様な研究成果を紹介。) 5. 総括と、担当教員自身の見解について(第14週) <p>第15回：フィードバック</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。									
【教科書】									
使用しない									
----- 科学論II(2)へ続く -----									

科学論II(2)

[参考書等]

(参考書)

青山拓央 『心にとって時間とは何か』 (講談社現代新書) ISBN:978-4-06-518022-8

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

[その他(オフィスアワー等)]

教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。

[主要授業科目(学部・学科名)]

総合人間学部